

ブラーミニメクラヘビの分布について

中間 弘*

The distribution of Brahminy blind snake in Kagoshima prefecture

Hiromu NAKAMA

はじめに

今日的物流の発達により、日本各地を始め世界各地の物産が流通し、居ながらにして何でも入手できるようになった。また、産業形態も変化し、小規模地場産業は衰退し、代わって大規模工場等による生産が行われ、生産物が物流システムによって日本各地へ配送されるようになった。

こうした変革によって人間生活は向上しているが、野生生物の分布に対しても大きな影響を与えている。今回、熱帯性蛇類であるブラーミニメクラヘビの分布について新たな情報があったので報告する。

1 ブラーミニメクラヘビ

ブラーミニメクラヘビ (*Ramphotyphlops braminus*) は、熱帯域に広く分布し、日本では南西諸島のほぼ全域と小笠原諸島、伊豆諸島南部に見られる。奄美諸島でも、庭先の石や鉢物を動かすと、下から10～20cmほどの黒っぽい紐状の生物が出てきてミミズと間違われることが多いが、体をくねらせて前進すること、体表面が乾いた鱗で覆われていること、絶えず舌を出し入れすることなどから、ヘビ類と確認できる。これがブラーミニメクラヘビである。

普通の蛇のように首のくびれは見られないが、先端部に0.2mmほどの眼があり、尾端はスパイク状に尖っている。また、ブラーミニメクラヘビは、ヘビ類では唯一、全てが雌で、単為生殖によって繁殖する。草地やサトウキビ畑などのやや乾燥した土壌を好み、石の下などにいることが多い。アリの幼虫や蛹、シロアリなどを餌としている。

2 分布域の北上

ブラーミニメクラヘビは熱帯・亜熱帯域に生息することから、県内の生息域はトカラ以南とされることがある。しかし、南薩地域の古老の話では1920年代から生息を確認しているといい、当館の標本にも1953/11/3 指宿市山川大山、1992/10/9 枕崎市千代田町という記録があることから、50年以上前から南薩地域で生息が確認できる。また、筆者が得た情報では、2002/6/7 桜ヶ丘中学校で確認、2003/5 鹿児島市谷山塩屋町で確認、2004/11/21 鹿児島市紫原で確認（日高正一）、2005/9/22 鹿児島市東坂元で確認、2006/11/6 串木野市住吉町で

* 〒892-0853：鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

確認（藤田房二）がある。これから判るように，年とともに分布域が北上している。こうした急速な分布域の拡大は，鉢物の移動など人間活動の影響が大きいものと推測される。

参考文献

日高敏隆 監修，1996，日本動物大百科 第5巻 両生類・爬虫類・軟骨魚類，83-100，平凡社